

第2部：キャリア教育はどのように推進され、どのように変容・成長を促しているのか

解説

第2部は、キャリア教育の方法に関することを扱ったテーマと、キャリア教育で育てる能力を扱ったテーマを収めている。

第1部の知見を改めて思い起こすと、学校で得た知識及びその有用性を感じ取れたかが、その後の行動を変えうることがうかがわれる。知識にかぎらず、教育活動を通して身に付けさせた力がその後の行動の基盤になることは、自明なことかもしれないが、決して強調しすぎることはない重要な点である。ましてや、将来の社会的・職業的自立に必要な力を育むキャリア教育においては、現在の力がその後の行動の基盤となることは目指すところでもある。

このように考えてくると、キャリア教育をどのように進めていけばよいのか、キャリア教育を通じてその後の自立に必要な能力をどのように育ていけるのか、という視点は、極めて重要なものの一つである。

そこで、下記の五つの章を設定した。

第4章は「小学校で「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」を育てるには」である。小学校段階においては、進路指導の蓄積がないために、キャリア教育に相当する既存の活動をキャリア教育として整理し、取り組み始めてからそれほど時間がたったわけでもない。育む能力についても、よく指導されているものも、相対的に指導されていないものもある。これを生み出す背景と今後の展開について、分析・考察した。

第5章は「キャリア教育における『卒業生の体験発表会』の意義」である。キャリアモデルを考えさせるきっかけとして、社会人や職業人の話を聞く経験や上級学校等の体験をすることがあるが、自分と近い経験をしている自校の卒業生に話を聞くということが持つ積極的な意義を考察している。

第6章は「インターンシップにおける事前指導・事後指導の影響」である。体験活動における事前指導・事後指導の重要性は繰り返し指摘されてきた。事前指導・事後指導を行うことで、インターンシップのみの場合と基礎的・汎用的能力の伸びがどのように異なるのかを解説している。

第7章は「高等学校における基礎的・汎用的能力と生徒の学習意欲」である。キャリア教育が学習意欲の向上に寄与することが各所で述べられてきた。学習意欲の向上を説明する図式の一つとして、キャリア教育を通じて育まれる能力である基礎的・汎用的能力の高低が学習意欲に結び付くかを検討している。

第8章は「『キャリアプランニング能力』とキャリア教育諸活動との関連」である。基礎的・汎用的能力の表れである具体的な行動に着目することを試みた。あることができるようになったという認識が必ずしも一貫するわけではないという結果から、個々人の能力等が様々な経験によって揺れ動くことについて議論を提起している。

第2部各章の知見を抜粋し、下記にまとめている(「知見の概要」で掲載したものの再掲)。いずれの章も確認してもらいたいが、特に関心と呼ぶ記述があれば、その章から読み進めるのもよいだろう。詳細は各章の記述に当たっていただきたい。

第4章 小学校で「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」を育てるには(33-38ページ)

- ・ 小学校のキャリア教育では「課題対応能力」と「キャリアプランニング能力」の育成に向けた指導に重点が置かれにくい。
- ・ これらの指導が不十分になりがちな理由としては、教員たちがキャリア教育に関する指導の方法や内容についてどうしたらいいかわからないという点がある。
- ・ そして、これらの指導を充実させるには、校内外の研修や授業研究会への参加が有効であることがうかがえるため、これらに参加できるような仕組みを整えることが重要である。

第5章 キャリア教育における「卒業生の体験発表会」の意義(39-43ページ)

- ・ 「卒業生の体験発表会」を実施している中学校は3割にとどまるが、26.7%の卒業生(第2位)が実施してほしかったと回答している。
- ・ 「卒業生の体験発表会」の意義は、同じ学校出身の先輩との交流を通して、生きた情報に触れ、自分の進路について考えることにある。
- ・ 卒業生は「卒業生の体験発表会」において、特に「高等学校など上級学校の教育内容や特色」、「卒業後の進路(進学や就職)についての相談の方法や内容」、「高等学校などの上級学校や企業への合格・採用の可能性」などを知りたいと考えている。

第6章 インターンシップにおける事前指導・事後指導の影響(44-49ページ)

- ・ インターンシップ経験は生徒の基礎的・汎用的能力を高めることに寄与する。
- ・ 事前指導については、「就業体験の目的を確認するための指導」が多く行われており61.8%であった。事後指導については、「報告書・レポートの作成」が最も多く、70.6%であった。教科と関連付けた指導は行われていない。
- ・ インターンシップ経験が生徒の基礎的・汎用的能力を高めることに対して、事前指導・事後指導が関連を持つことがうかがわれる。
- ・ 事前指導・事後指導が、その学校で行うインターンシップにとって必要な取組になっているかという視点から点検し、重点化を図ることが重要である。

第7章 高等学校における基礎的・汎用的能力と生徒の学習意欲(50-56ページ)

- ・ 「基礎的・汎用的能力」が高い生徒は、「学習意欲」が高い。より厳密には、「基礎的・汎用的能力」の自己評価が高い生徒は低い生徒よりも、約15ポイント～約20ポイント以上の差で「家での学習に積極的に取り組んでいる」。
- ・ 「学習意欲」が最も低下する2年生前半の時期であっても、「基礎的・汎用的能力」の自己評価が高い生徒は低い生徒よりも、「家での学習に積極的に取り組んでいる」の項目に「あてはまる」と答える割合が約8倍～約10倍高い。

第8章 「キャリアプランニング能力」とキャリア教育諸活動との関連（57-63 ページ）

- ・ キャリアプランニング能力を身に付ける者の割合は高等学校生活の進行とともに高まり、高等学校生活に関する意識・態度の高まりとも関わっている。
- ・ 一方、個人に着目すると、「職業や働き方を選ぶ際に、どのように情報を調べればよいかわかっていく」に対する答えは、調査時期によって揺れ動いている。
- ・ 「キャリアプラン等の作成」「上級学校の教員や社会人講師による出張授業・講演会」「卒業生による講演・体験発表会・懇談会」は、第1学年で行われると「職業・働き方についての情報源の理解」に寄与する。「キャリア・ポートフォリオの作成・活用」は学年を通して、また特に第3学年において「職業・働き方についての情報源の理解」に寄与する。